



# ふらっとカフェ鎌倉

～食を通じた多世代型居場所づくりの連携・協働実践～

2022/2/2 代表理事 渡邊公子



# (一社) ふらっとカフェ鎌倉とは？

2017年3月設立の一般社団法人。(活動拠点:鎌倉市内全域)  
現在 **15**団体・**20**名・協力店舗**19**店が参画  
(子育て・学習支援NPO団体、レストラン・福祉施設経営者・大学教授等)

## 【事業】

### ■ 移動式地域食堂「みんなたべ」 (みんなで食べる食堂)

鎌倉市内で「レストラン」「福祉施設」の**定休日**を借り、運営する。  
栄養バランスの取れた食事の提供・三世代交流の場をつくる。



# (一社) ふらっとカフェ鎌倉とは？



## 【事業】

### ■ フードパントリー

鎌倉市民・鎌倉市・支援団体と連携し、食品ロス削減。

食糧支援を月**2**回実施。

→主に**鎌倉市民による寄付**が中心。災害時の食料支援としての役割を担う可能性も。(地縁組織との連携等)

### ■ みんなたべ協議会運営

多岐にわたる鎌倉市内の**12**団体と約**3**か月に**1**回、独自の連携や情報共有・フードドライブの実施。(コロナ禍では活動中止)



# 移動式地域食堂「みんなたべ」はどんな場所？

主に店舗の定休日を使い、夕方を中心に開催。

会場ごとにメニューが変わり、学童機能（見守り保育・遊び等）あり。  
会を増すごとに食品の寄付が増加、その食材を中心に料理を提供。  
場所によっては、料理教室のようにもなり、それを楽しみに来られる方も。

## どんな人が参加しているの？

■ 平均参加人数 35～40名（最高：71名）

■ 参加者年齢 0～80歳代（最高年齢88歳）

■ 平均提供料理数 6～9品（最大：14品）

■ 参加者内容（一部）

保育園・幼稚園終わりの親子、小・中・高・大学生  
独身男性・一人暮らしの高齢の方 等

■ その他

毎月一回チラシ配布、地域通貨「みんなたべ通貨」運営

カテゴリ：健康・福祉



ツイート いいね! シェア

寄付金額

2,211,000円

221.1%

目標金額: 1,000,000円

達成率  
221.1%

支援人数  
97人

終了まで  
受付終了

# 地域食堂の変化（感染症前後での変化）

## コロナ感染症前

- 2017/3/22～2020/3/18までに計**123**回開催
- 参加者総数 延べ**4596**名（約月**3～4**回開催）
- 固定と変動の場所にて開催（新規協力店舗も年**3～4**箇所増加）

## コロナ感染症後

- 2020/4/22～2022/1/26までに計**34**回開催（延べ**157**回）
- テイクアウトの開始（店内人数制限・時間調整実施）
- 平均**25～35**食提供（月**2**回開催）
- 二箇所（レストラン・福祉事業）にて開催（**1**か所新規開催場所）

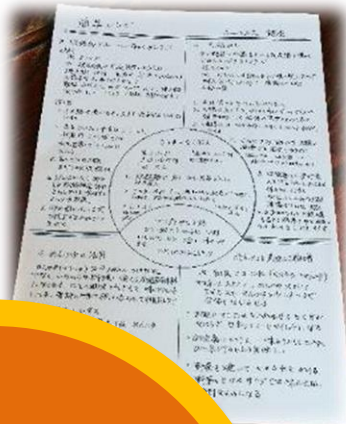
# コロナ禍の新しい様式での開催の取り組み

- ① マスクの着用、検温・除菌の実施、3密を避ける席の配置
- ② テイクアウト（お弁当）の実施
- ③ 完全事前申し込み制（事前確認の徹底）
- ④ 店内飲食は人数制限（10名）を設け、時間で区切り入れ替えを実施
- ⑤ 食事の提供は特定スタッフが行う





# フードパントリー（食糧支援）の様子



食材に合わせた  
調理レシピ

家族構成・環境を  
配慮した  
詰め合わせ

こまめな支援で  
見守り



# フードパントリー（食糧支援）の様子

## 2020年度

- 食糧寄付 **150**件（8/1～12/26） → 年々増加
- 学生コラボデリバリー支援 **39**食（12/13）
- コロナ禍支援で必要な家庭への支援 年**3**回／**10～12**世帯

## 2021年度

- 食糧寄付 **157**件（1/1～12/28）  
→ 企業・学校からの寄付**45**件（毎月複数回寄付をうける企業あり）
- 鎌倉市協働食糧無料配布会 **8**回（1/23～12/26）  
→ 平均**100**食（1食 平均**3.5**kg／最大**200**食）
- ひとり親、高齢者、生活困窮世帯への支援 年**12**回／**35～42**世帯  
→ 平均**10～12**品（約**12**kg～最大約**20**kg／世帯人数による）  
季節や寄付品の内容によって、毎月食品の種類を変更している。



# フードパントリー（食糧支援）の様子

■コロナ禍で支援が必要な家庭へ毎月1回公募にて**20~25**世帯に食糧支援を実施。

**1回の公募支援で終了せず**、個別の支援要請連絡・食材寄付があり次第、**随時配送対応の実施**（月**2~3**回）

こまめな連絡・**特定スタッフによるデリバリー**をすることで、信頼関係（育児相談等）を築けている。

⇒ 自然な見守り・対等な人間関係の構築（継続した関係づくり）

# フードパントリー（食糧支援）の様子

## ■その他

安定した食糧支援や仕組みを作るため、鎌倉市生活福祉部と連携、**ガバメントクラウド**を実施、目標金額（100万）を大幅に超え**達成**。同時に**市内外・県外**から多くの食材寄付も。（2020/10/1-11/15）

寄付等の増加に伴い、鎌倉市と協働で保管用倉庫の確保、**フードバンク鎌倉**設立準備を進めている。

# フードパントリー（食糧支援）の様子

カテゴリ：健康・福祉



朝日新聞  
DIGITAL

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸能

朝日新聞デジタル > 記事

## 「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

編者責任 2020年10月20日 10時30分

シェア ツイート フラグマーク ツール 印刷



寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食事会を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った資金集め（ガバメント・クラウドファンディング）を始めた。コロナ禍以降、「ふらっとカフェ」は従来の食事会に代え、困窮世帯に食料品を届ける活動を続けていて、集めたお金はそうした資金にする。

ツイート いいね! シェア

寄付金額

2,211,000円

221.1%

目標金額：1,000,000円

達成率  
221.1%

支援人数  
97人

終了まで  
受付終了



## ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



### ■ 平等（対等）であること

支援側・される側共に平等（対等）の関係であるからこそ、生活環境・年齢・性別関係なく、気兼ねせずに参加することができる。

⇒ また「参加しよう」と思える（見守り・引きこもり防止）

### ■ 地域住民を巻き込んだ活動

移動式地域食堂にすることで、**地域ごとの参加者の輪や特色**が出た。（地域のレストラン・福祉施設で運営することで**地域目線、繋がり**が自然と出来上がった。）地域住人への声かけ・イベントへの協力・参加された地域の方が次回も参加・協力しやすい環境づくりをすることや活動の理解から、多くの食材・寄付金・寄付物品があった。

⇒ 誰でも気軽に関わられる環境づくり（継続した支援の環境づくり）

## ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



### ■ 誰と一緒にやるか・巻き込むか

他団体の得意分野（育児・料理・広報・福祉・音楽・学習支援等）を活かした企画・運営コラボを実施（関係人口の増加）したり、鎌倉市や教育委員会を巻き込むことで課題の共有・協定の締結・活動の幅が広がった。

⇒ 特色のある地域食堂の運営や団体活動の多様性が生まれた

### ■ 対面・関わり続けることの大切さ

一時的な運営ではなく、地域に根差した活動や広がりができる仕組みを構築することで**継続運営の環境づくり**を行った。また、学生とのコラボ企画することで**次世代育成・人の循環・安定運営**につなげた。

⇒ 関係人口の増加・柔軟性の高い運営環境づくりをすることができた

# ふらっとカフェ鎌倉が大切にしていること



市民一人一人の力は  
小さな力でも  
集まれば大きな力となる  
(参加ボランティアの声)





# 多くのメディアの協力

⇒掲載によって多くの寄付・支援金をいただく。

鎌倉版 掲載日：2019年5月31日号

## 食で広がる多世代交流の輪

ふらっとカフェが活動3年目 (鎌倉)

「ふらっとカフェ鎌倉」(渡邊公子代表)が活動3年目に入った。「子ども食堂」にヒントを得ながら、老若男女、誰もが気軽に参加でき、交流を図るこの取り組み。食事はもちろん、調理や配膳、片付けも全員で行うのが特徴だ。



市内8カ所の施設や飲食店を会場に、月に数回開催するほか、思いに賛同した人がノウハウを学び、5カ所で「独立」するなど、活動は広がっている。今春には、各団体が情報共有などをする連絡協議会が発足。「一人で食べるとか、お店で買ったものばかり」といった「食の貧乏」を無くしたい――。渡邊代表が掲げてきた「小学校区に1カ所」という目標に少しずつ近づいてきた。

## 「食事付き寺子屋」目指す 「ふらっとカフェ鎌倉」スタート



子どもからの申込みが殺到する中で、食事を週に1回提供する「ふらっとカフェ鎌倉」が鎌倉市内でスタートした。NPO法人として5団体が協力して「食事付き寺子屋」を開設し、児童が出席不足などの悩みが解消したと喜ぶ声も出てきた。



朝日新聞 DIGITAL

トップ 社会 経済 政治 国際 スポーツ オピニオン IT・科学 文化・芸能

朝日新聞デジタル > 記事

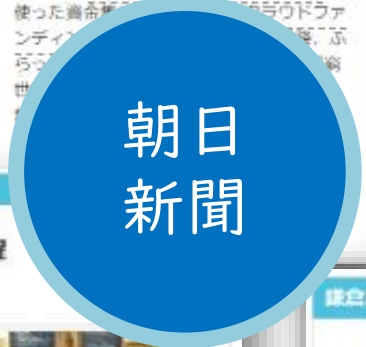
## 「困窮世帯に食料を」官民タッグで支援 鎌倉

掲載日時 2020年10月20日 10時30分

シェア ツイート ブックマーク メール 印刷



寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食事を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った食料支援事業「ふるさと納税で食料を届けるプロジェクト」を立ち上げた。市は、困窮世帯に食料を届ける事業として、寄付された食材を使ってレストランなどで楽しい食事を開き、一人親家庭などを応援してきた鎌倉の団体「ふらっとカフェ」が、鎌倉市の協力でふるさと納税を使った食料支援事業「ふるさと納税で食料を届けるプロジェクト」を立ち上げた。



## 余った食品、地域で活躍

24日から寄付を受け

「食べきれない」「使う予定がなくなり」。こういった家庭で余っている食品を募り、福祉活動団体に寄付する「フードドライブ」を3月24日(日)から29日(金)まで鎌倉市(初日は受付なし)とNPO法人鎌倉リサイクル推進協議会が協働事業の一環として実施する。



この取り組みは、消費しないまま食品を捨ててしまう「食ロス」として全国各地で行われているもので、市では2017年度から、これまで5回にわたり実施されてきた。

市ごみ減量対策課によると、使い切れずに捨てられる食品は、ジャガイモなど、多い時は約60kg。市内で福祉活動を行う「(社)ふらっとカフェ」にある倉庫「フードバンク」で管理される。

「食を届けた世代交流の場を」と高野代表は、月に数回、料理を振る舞う活動を行っている。寄付で残っており、渡邊公子代表は「継続して活動のきっかけ。他団体と協力し、市内の小中学校区に広げたい」と話す。



Webポート

## コロナ禍の子ども食堂 食材配布で見えた厳しい現状

2020年11月23日

「お米が足りません。お米が足りなくてお米が買えません」

これは、コロナ禍で食料が足りなくなった児童福祉施設の子どもの食費が、回っている家庭に食材を配布して配布する取り組みが新たに始まったところ、子どもから受け取ったお米の手紙です。活動を通じて見えたのは、新型コロナの感染で深刻な状況にある人たちが多くいる厳しい現状でした。



子ども4人の母子家庭「お米はすぐ



鎌倉版

## 「ふらっとカフェ鎌倉」の代表を務める 渡邊 公子さん

稲村カ响在住 74歳

ツイート いいね11 シェア 0

### 食でつなぐ命と地域

〇〇…全国で広がる「子ども食堂」をヒントに、幅広い世代が集い食事をしよう、先月末に第1回が開催された「ふらっとカフェ鎌倉」。これを運営する市民団体の代表を務める。会場は市内の飲食店を借り受け、食材の一部は寄付で賄うなど、すべて市民による手作りなのが特徴だ。週1回の開催を止めず、約20人のメンバーと共に準備に奔走する。「みんなで気軽に楽しく、美味しいご飯を食べる場になりたい」と意気込みを語る。

